

医療現場は“災害レベル” 現場の医師「自分や周りの人を守るために協力を」

8/19(金) テレビ高知



<https://news.yahoo.co.jp/articles/5b3e5bc46ef7cedf8fdca4fba6618a064b728bc8>

医療機関の現場の医師は、救急医療のひっ迫状況について、「災害レベル」だと、窮状を訴えています。

(近森病院救命救急センター 根岸正敏 センター長)

「患者さん自身がどの重症度か、なかなか分からないと思う。そういう不安がいちばん問題ではないか。それと医療側の体制がマッチできていない。いまは災害レベル。とにかくできる限り患者を受けていきたいが、どうしても重症を優先しなければならない。お断りせざるを得ない状況は申し訳ない」

苦しい胸の内を語ったのは、高知市にある近森病院の根岸正敏（ねぎしまさとし）救命救急センター長です。重症患者を受け入れるコロナ病床も確保している近森病院は、緊急性が高く、重篤な患者を受け入れる救命救急センターとして、県内医療の中核を担っています。

通常は、脳血管疾患や心疾患などの救急患者の搬送が中心ですが、第7波により、発熱を理由に救急を利用する患者が急増したことで、搬送件数が増加。しかし、感染の疑いがある患者に対応できる処置室や、コロナ病床の満床に加え、家庭内感染などでスタッフが足りず、7月は、救急搬送を受け入れられなかったケースが110件となりました。そして、8月は、18日時点で、7月の件数を超えています。

(近森病院救命救急センター 根岸正敏 センター長)

「少ないスタッフで多くの患者をみることになりますので、医療の質という面から考えると、非常に危険な状態になる可能性もある。心肺停止などの患者は絶対的に受け入れていますので、できる対策をとりながらやっています」

根岸センター長は、救急隊員からの患者の情報をもとに的確に判断し、緊急を要する重篤

な患者は絶対に受け入れなければならないと強い口調で訴えた上で、県民に、コロナ対策への協力と救急医療の現状の理解を呼びかけました。

(近森病院救命救急センター 根岸正敏 センター長)

「今後1週間(感染確認の)数が落ち着いたとしても重症患者が増えるのが心配。かからない、広げない、最低限の自分・家族・周りの人を守る対応をしていかないといけないと思うので、協力していただきたい。救急車を呼んでも、場合によっては2~3時間待たされるようなこともあるかもしれないが、何とか医療機関は受け入れられる範囲でやろうとしているので、その辺はご理解いただきたい」

高知家の救急医療電話

- 医師や看護師が対応
- 「緊急性があるか」「救急車を呼ぶべきか」助言
- 応急手当てのアドバイス

#7119

24時間 毎日
無料